

2008. 5. 26

日本火星協会

<http://marsociety-japan.org/>

代表 村川
事務局 安濃

Phoenix ミッション

http://www.nasa.gov/mission_pages/phoenix/main/index.html

火星へ 行きましょう！



「目標は何か」

北極圏に着陸して、地表下での水の存在を確認することです。

火星の地質と気候について情報を収集します。

火星に生命が存在したか、またはしているかの手がかりを探します。

火星の北極の氷の豊富な土が生命の存在に適しているかを探ります。

「疑問を解決し、更なる疑問の解決に向う」

火星についての科学的な疑問は、短期で答えが出る疑問と長期間かかる疑問があります。短期で分かる疑問はすぐ明らかになります。一方、中程度もしくは長期の答えは、更なる調査と最終的に人による調査が必要とされるでしょう。実際に、Phoenix の科学的目的とミッションの役割は、Phoenixに先行したミッションの結果に基づいています。

「人間による探査への道を開くこと」

Phoenix と将来のミッションの成功を基にして、我々は火星の表面に着く手段を得るでしょう。

Phoenix の地質学的仕事の間、そしてその後も、着陸船は気象観測所として用いられます。

それは火星の気候の変動への知識を提供します。Phoenix の気象観測器は、将来のロボットと人によるミッションへの助けとなります。

そして、このミッションは将来の火星へのロボットおよび／または人間によるミッションによって答えられる新しい疑問を必然的に生み出します。

「数学と科学に対する公的関心を生み出すこと」

火星への以前のミッションと同様に、Phoenix 着陸船は赤い惑星と我々の太陽系の探査に対する非常に大きい関心を生み出し、NASAの火星ミッションウェブサイトへの何十万もの類のないウェブ訪問を記録しています。Phoenix 着陸船は、他の火星ミッション同様、市民(特に子供)を数学、科学とエンジニアリングにより興味を持たせる役割をしています。

それは、それが引き起こす「**本当に火星に行く**」という夢です。そして、それは人類が、若者と老人が何世紀もの間共有するものです。以前、我々は火星または月に行くことを夢見ることが世界を動かしたということを知っています。アメリカの宇宙計画への関心は世界中で数百万人を感激させました。そして、数百万人以上の人が関心を持ち、そしてその結果から得られる知識から継続的な利益が得られます。将来の火星への人間による探査の期待は、子供たちに夢見続けることと、難しい学問を極め追い続けるためのエネルギーを与えます。人間を月に行かせようとする挑戦で、数学、科学とエンジニアリングに興味がある幅広い世代の人々が生まれました。テクノロジーの飛躍への要求があることで、宇宙計画は我々の生活水準にかなりの進歩を生み出しました。

火星と太陽系への我々の継続的な探査は、**夢を維持して、我々みんなの利益を生み続けます。**